



あらぐさ

36期生 卒業研究発表会



発表会



〔発表・質疑の様子〕



研究発表会



看護師への決意新たにした1年生

1年担任：佐々木

今年度より戴帽式の取り組みは看護学概論Ⅱの授業として行いました。実行委員を中心となり、BGMや歌を決めて昼休みや放課後に練習し、誓いの言葉をみんなで考えました。また歩くテンポや歩調、キャンドルの高さを統一し、おじぎの角度も全員が揃うまで何度も練習しました。戴帽式前のアンケートには、「これからつらいことがあっても勇気づけられるような式にしたい」「みんなで真剣になってつくりあげたい」という前向きな希望が記入されていましたが、準備が進んでいく中で、41人それぞれの考え方や行動の違いがあるなかで、それを認め合うこと、それを行動として表現することの難しさを感じる場面があり、不安な気持ちになったり、お互いを心配しもどかしく感じたり、心身の疲労の色が見えた場面もありました。そんな中でもう一度自ら奮起できたのは、実行委員をはじめとする41人が、頑張ろうとする姿にお互いが刺激され、自分なりのやり方で同じ方向に進み始めることができました。当日はよい緊張感を保ち、厳かな雰囲気のなかにも、38期生らしい温かみと、ひたむきを感じる戴帽式となりました。感動の涙のなかで新たな決意を胸に仲間とともに歩み始めたことが、一人ひとりの表情から感じることが出来ました。これから看護専門職として獲得する知識と経験は膨大で、色々な方々の支えが必要となります。“孤独じゃ重い扉も共に立ち上がりれば動き始める”戴帽式で歌った歌が皆さんのがれからの日々を表現しているように感じました。そんなみなさんをこれからも、ご家族や臨床で支えてくれる方々と一緒に応援していきたいと思います。



1年生戴帽式(11/12 本校講堂)

*ナースキャップは実習では使用しません



長期実習に真摯に取組む2年生

2年担任：岩波

37期生は10月から各論実習がスタートし、内科や外科、小児、母性など様々な経験をしています。手術した患者さんが元気に退院する姿や、生命の誕生に立ち会えた感動を話す学生、闘病する患者さんにどのような看護が提供できるのかと真剣に考える学生、障害を抱える児との関わりの中から看護師の役割について悩み考える学生などなど…真摯に実習に取り組んでいる様子が伺えます。

また、12月3日には看護研究の授業として山梨県看護学会に参加しました。実習での学びや悩みをもとに、先輩看護師に向け積極的に質問や感想を発言し、学びを深めることができました。その学びを年明け早々から始まる後半の実習に活かし、より良い看護実践ができるることを期待しています。そして、一人一人が自己に向き合い、実習後に一回り大きく成長した37期生のみんなに会えることを楽しみにしています。寒い冬に負けずに頑張れ、37期！

御家族の皆様のご支援により、学生が実習に集中できていることに感謝しております。これからはより一層寒さが増し体調を崩しやすくなることが予測されます。健康管理も含めて引き続き御支援をよろしくお願ひいたします。

2年生担任 岩波美和

写真左より：母性看護学校内実習 韓国語授業 山梨県看護学会参加 与薬校内実習



患者さんの心に灯をともす看護師にー3年生

3年担任：鈴木

3年生39名が「ぴゅあ総合」(甲府市朝氣)にて3年間の集大成である卒業研究発表を行いました。凛とした表情で堂々と自己の看護実践を発表しました。39通りの看護実践、39通りの看護観に触れ、自己の看護観を深めることができました。発表内容から看護観を深めることができました。発表内容から、ぐっと臨床の看護実践に近くなつたことや、学んできたことを吸収して自己の看護実践に活かすことができていたことを改めて知り、3年間の成長を実感できました。これからも患者さんの心に灯をともすことのできる看護師に成長していってほしいと願っています。二日目には瀧倉みさ江先生に「患者の立場に立つ看護」とのテーマで講演をしていただきました。実際に出会った患者さんや、自身の民医連看護活動を、常に「誰のために・・」「何のために・・」と問い合わせながら実践者として活動してきたお話を聞きました。自分たちが患者の立場に立つ実践者としての土台を固め、その上に立っていると確信出来る内容でした。(3年生担任鈴木)



写真左から：卒業研究発表 在宅看護学校内実習 国家試験合格祈願達磨 模擬患者さんとの校内実習

スキー実習(保健体育)

2016年12月25日から二泊三日で保健体育スキー実習の授業を行いました。スキーを選択した1、2年

生25名は習熟ランク別に6つの班に分かれ、各班にはカウンセラー(兼インストラクター)が一人づつ付きます。3日目は天候から滑走は出来ませんでしたが短期間で驚くほど上達し、スキー経験の程度に拘わりなく自然の中での身体活動の充実感を味わいました。夕食後の振り返りと交流の時間も楽しく過ごしました。山梨大学から参加した4名の学生とも交流を深めました。参加学生はスキー実習レポートを提出します。



写真：志賀高原横手山スキー場にて

学生自治会活動

7月以降の取り組み

8月：4・6日 原水爆禁止 2016世界大会、広島平和祈念式典に自治会代表2名参加

19日 上記大会参加報告会

学生自治会役員選挙—会長、副会長、会計、書記が1、2年生から選出されました。

10月：1日 5名の新自治会役員のもとで始動しました。

11月：12日 1年生(38期生)薦帽式にて同じ看護師の道に向かうものとして祝辞と記念品を贈りました。

教育環境やカリキュラムに関わる要望書を学校に提出しました。学校との協議の場で要望項目ごとに説明し、意見交換をしました。

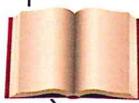
共立高等看護学院学生自治会
会長 志村圭将



卒業研究発表会を終えて-3年生

中村 妃花

私たちの3年間における実習は終了してしまいましたが、今回の卒業研究発表会で発表されていた36期生のレポートでの学びの共有や卒業記念講演で聞いた窪倉先生の学校の生徒の学びを改めて自身の取り入れ、看護観等考えを深めていきたいと思いました。国家試験に合格後、来年度の就職に対しても期待と同時に不安がありました。自身の大切にしている看護を行えるように、環境を作っていくことも大切なことだと学ぶことが出来ました。看護師という職業を選択し、学んできた以上患者さんを守りたいといった気持ちは等しく、思いの根底にあるのではないかと考えます。そのため、自身の考えはしっかりと外へ発信するようにしながら、共に看護を行い、学び合っていく仲間を作り頑張っていきたいと感じました。



西川 遥香

36期生の卒業記念講演では様々な事例が発表されました。自分だったらどうするだろうか、患者さんの家族はどういった心情なのか。自分の肉親がこうなったと自分に当てはめて考えることが沢山ありました。一番近くで患者を見て、関わる看護師だからこそ患者の気持ちになって必要な援助や看護を考えることが求められるのだと思います。患者の立場に立って考えるだけでも提供する看護や考え方も多様化し、より患者に合ったものが、出来上がると思います。私はただ単に決まった援助を実施していくのではなく、患者をしっかり捉え患者の気持ちや立場となり、患者のための看護を提供できる看護師になりたいです。卒業研究発表会に加えて、記念講演を聞き改めて看護について考えを深めることができました。



山梨看護学会に参加して-2年生

池谷結花

看護研究とは、気になったことを明らかにし、報告するということだけだと思っていた。しかし、その研究を看護師で共有することで看護の質の向上ができる、自分の看護を振り返り、深めていくけるものだと知った。日々、行っている看護を深めるために看護研究を行い、発表することで、看護師は日々の実践だけでなく看護について考え、新たなことに気づき、より質の高い看護を全体で共有するという役割があると考えた。私達学生も、まとめにおいて自分の受け持った患者に行った看護や学びを発表する。学生一人が実習中に受け持てる患者さんには限りがあるが他の学生の発表から多くの患者さんに対する看護を学ぶことができ、自らの看護を深めることができる。私達も看護研究と似たことを行って、看護を深めているのだと知り、より実践を振り返り発表することの大切さを学んだ。実際に看護研究を聴き、こういう患者さんにはこういう関わりができるのか、とたくさん学びがあった。また、発表を聴いていると、これはどういうことだろうと、新たな疑問が生まれてきた。学会誌を読み、質問を考えていた時には、全く浮かばなかったことが、発表にとても興味が出てたくさん考えが出てきた。発表をする人だけでなく、聴く人がいて、質問することによってより深まっていくのだと感じた。



茗ヶ原えみり

色々な事例や研究を共有することで、今ある問題の改善につながったり、よりよい看護を提供することができるとしても良い機会であると思った。また、看護師は患者さんやその家族のために何ができるか考え直したり、考えを深めたりすることができる場もあると感じた。患者さんの気持ちや考えをくみとった研究ができるのは医療従事者の中でも患者さんと特に関わりを持つことができる看護師であるからだと思った。また、患者さんのためにより良い看護を提供していくうとする看護師さんたちを見て、改めて患者の立場に立って考えられる看護師になりたいと実感した。



会場の山梨県看護研修センター
(甲府市東光寺)

原水爆禁止 2016 世界大会参加報告

飯田東部自治会の皆様、父母の会の皆様のお力添えも賜り、昨夏、広島市内の原水爆禁止 2016 世界大会に学生自治会代表 2 名が参加いたしました。その報告を掲載します。ご支援いただきました皆様ありがとうございました

田中 希 (1 年生)



毎年八月になると原爆のニュースや番組が目に入ってくるが、私はそれを流すように見て関心すら持っていたいなかった。原爆が落とされたのは私が生まれる何十年も前の話で、広島と長崎から離れた山梨に住んでいるから、他人事のように考えていた。しかし、世界大会に参加できる機会をいただき、自分の目で生の現場を見て、自分の耳で生の声を聞いて、実際に起きたことや現状知りたいと思い行くことを決意した。1日目は、世界大会の開会式と Ring! Ring! Zero という会に参加した。開会総会では全国のあちこちからリレー行進をしてきた方たちの思いを聞くことができ、多くの人たちが平和を願っていることを知れた。戦争を止める戦い、被爆者が続けてきた戦いを終わらせないために皆が声を上げて、日本だけでなく世界を変えようとしているのだと感じた。Ring! Ring! Zero で印象に残っているのは戦争をなぜするのかという話題だ。私自身とても気になつていいたが、貧困と差別による競争が争いを大きくしていることを知った。貧困と差別の問題を解決することは難しく、このままでは争いは永遠になくならないのではないかと不安になった。2日目の分科会では、青年の広場を選択し「核兵器をなくすべきか」その原点を学ぶと共に、被爆者の方から直接体験を聞くことが出来る被爆者訪問に参加した。「家はぐちゃぐちゃで、あるのはがれきだけ。臓器や目が飛び出て、鼻がぶら下がっている。うみやすす、焼けた肌のにおいがする。」想像しただけで胸が苦しくなった。資料館には衣服や写真が展示されているが、現実はもっと悲惨だと思う。グループワークでは同じ年のグループリーダーの言葉が印象的だった。「今の若い人たちは興味がなさすぎる。憲法も私たちに与えられたものなのに知らないままの人が大勢いる原爆や戦争があった日は知っていても教育の中で想像することがないからもっと深く学ぶ場を作らなければいけない。」その言葉全部に当てはまる私は少し恥ずかしくなった。被爆者の平均年齢が80歳を超え、話を聞ける機会が少なくなっている中で、直接話を聞けるという貴重な経験が出来て良かった。何百年たったとしても若い世代が次々と後世に伝えていかなければならないし、過去のものにしてはいけないと強く感じた。3日目の閉会総会では放射能による癌、苦悩や影響は世代を超えて及んでいると知った。戦後71年たった今でも苦しんでいる人がいることを忘れてはいけないと思った。被爆者 2 世、3 世の方の歌もとても印象的だった。3日間を通して学び感じたことは沢山あるが、一番思ったことは二度と同じ悲劇を繰り返してはならないということだ。(以下略)

藤井 嵐 (1 年生)



私は今まで原爆投下があったことを知っているだけで、このことについてあまり学習はしていませんでした。今回参加しようと思ったのは、今まで考えてこなかったことを考える良い機会だと思ったからです。1日目は、開会式が行われました。そこでは海外の方等の原爆に対する意見や思いを聞かせていただきました。また、平和大行進など自分の知らないところで多くの活動が行われていることを知りました。自分がなにもしていないことが恥ずかしいなとさえ思いました。機会があれば私もこのような活動に積極的に参加して行きたいと思いました。開会式の後には Ring! Ring! Zero という青年が参加する企画がありました。自分と年齢があまり変わらない人達が意見を交わす姿はとても良い学習の機会になりました。また、自分が今後原爆に対してどういう意見を持ち、どんなことをいきたいかを考えさせてくれました。2日目の分科会は青年の



2016年8月6日平和祈念公園「原爆の子の像」の前にて

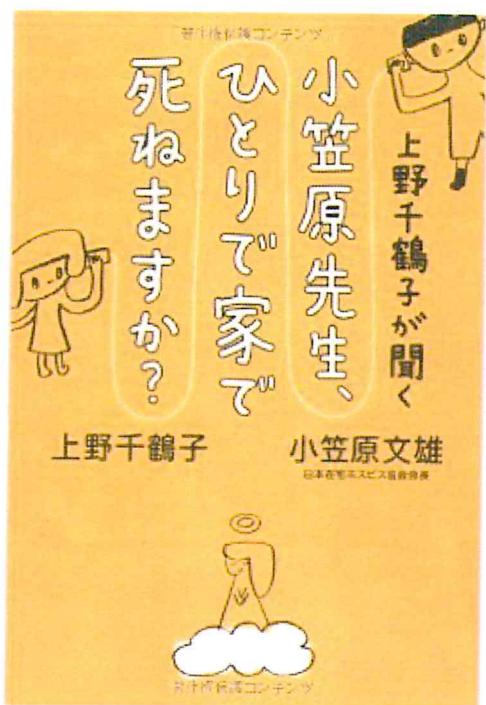
広場に参加し、被爆者の方から直接お話を聞きました。原爆の光や放射能を受けた人がどんなふうになってしまったのかや戦時中自分たちがどのような暮らしをしていてどんなことを思っていたのか様々なことをうかがいました。話を聞いて、こんなにも悲惨な出来事は絶対に繰り返してはならないと思いました。また、私たち日本がしてしまったことも考えなければならぬと思いました。被爆者のお話の後は感想や意見を同じグループの人と交わし、自分とは違った考えには新しい発見や驚きを感じました。被爆者の方の声は本当に重みがあり、これを自分の身の回り、後世に伝えていかなければならないと思いました。3日目は、平和祈念式典を見て千羽鶴を納めました。式典参加の人はとても多く、原爆や平和について関心を寄せる人数だと感じました。その後は原爆ドームや実際被爆があった場所を巡りました。(中略) この3日間は私にとって驚きと感嘆、学習の連続でした。

私がお奨めする一冊

『上野千鶴子が聞く小笠原先生、ひとりで家で死ねますか?』著:上野千鶴子 著:小笠原文雄 出版社:朝日新聞出版

ご存知の通り、日本は世界有数の長寿国です。日本の高齢化率は急激なカーブを描きながらあつという間に欧米諸国を追い抜いて、日本は世界一の高齢化率を誇る長寿国となりました。超高齢社会の次にやって来る社会は何か?それは「多死社会」と言われています。近年、日本の死亡数は120万人でその内8割以上の方が病院で亡くなっています。自宅や施設などの住み慣れた場所で亡くなる方は、1割程度にすぎません。2025年の死亡数は160万人と予測されており、47万人が最期を迎える場所が無くなってしまう時代が来ると言われています。そこで、疾患や障がいを持った方やその家族が、住み慣れた地域で安心してそのいとらしく生きることを支援することが求められています。今回紹介する本は、その人らしく「生きる」ことを支援する人を目指すみなさんにおススメです。著者の小笠原文雄医師は、どうしたら患者や家族が納得のいく最期を迎えられるのか、30年にわたり、1,000人以上を在宅で看取った経験から具体的な事例を挙げて執筆されています。患者・家族がどのように生きたいと思っているのか、最期まで生きることを支えるとはどのようなことか、理解が深まる一冊です。

(地域看護学・2年副担 宮川江里)



『ぼくらの民主主義なんだぜ』 高橋源一郎 朝日新聞出版 2015年

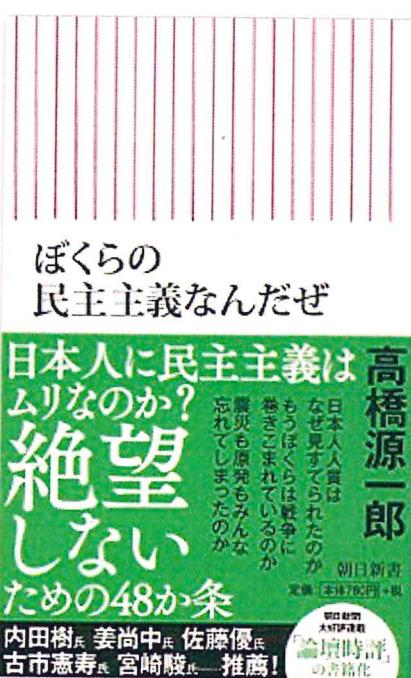
¥780+税

「90歳、いつまで生きているつもりだ」「ナチスの手口に学んだらどうか」「戦争に行きたくないというのは自分中心」一部の政治家たちの暴言が止まらない。日本のリーダーを自認する者達が、人権をないがしろにする発言を繰り返している。自説であるが、こういう暴言に対して私たちが慣れてしまい、怒らず何の行動も起こさなくなった時、ほんの小さなきっかけで戦争に突き進むと思う。

一方、看護者は、ケアの対象となる様々な人の声を聴く。小児や高齢者、難病患者さん、心身の障害がある方、言葉をしゃべることが出来ない失語症の方、意識レベルが低下した方。彼らの声は、心と耳を澄ませないと聴くことが出来ない。他にも、声の小さな人たちはたくさんいる。被災者、非正規労働者、生活困窮者、シングルペアレント、LGBT、外国籍住民、難民、ありとあらゆるマイノリティ。私は民主主義とは、「声の大きな人たちの人権をないがしろにする暴言を許さないこと。そして、声の小さな人たちの言葉にきちんと耳を傾けること。」から始ると思う。

皆さんは、民主主義とは何だと考えるか?この本は、タイトル同様に内容が口語調で読みやすい。また、一話につき4ページ程度なので時間が無くても読み進めることができる。定価もリーズナブル。

(教育活動調整教員 押領司民)



教員の研究・研修活動

■看護学教育学会第26回学術集会 2016年8月22-23日 都内

テーマ：「新たな時代を動かす看護学教育の『知』の共鳴」

本校発表「看護学生がトリアージ訓練に参加して学んだ看護師の役割」 塩澤詩穂（成人看護学）



全国各地から多くの看護師、看護教員が参加しました。研究発表以外では、「社会情勢もなんのその、しなやかに、したたかに生きる看護職」というテーマのシンポジウムに参加しました。保健学者、社会学者、看護師兼作家という他ジャンルの3名のシンポジストが、大きく変化し厳しさを増す社会情勢の中で、看護職に求められる役割や期待について意見を交わしました。シンポジストの一人である宮子あずささんは作家としても活躍し、皆さんもよくご存じの『チチナース』等で連載もしていた現役看護師です。宮子さんは「研究すること、学ぶこと、迷い悩む看護職を救うことには繋がる」と述べ、悩み多き現役の看護師さん達に、多くの研究を紹介し指導されているそうです。「知りうること」、「探求すること」は、看護師としての自信を強め、看護師として力強く生き抜くための最大の武器になる、そう励まされ背中を押されたような想いでした。看護師になれば、「看護研究に取り組んだらどう？」と上司に言われ、忙しい業務の中締め切りとにらめっこしながら夜勤明けで研究と戦うなんてこともあるかもしれません。私自身「研究」と言わると一歩引いてしまう気持ちもありました。しかし、研究に取り組むことは日頃のもやもやの中身を言語化し、今後の看護実践に活かしたり、自分のこれまでの実践を確かめ合うとても大切なプロセスであることを改めて学びました。（塩澤）

■日本看護学校協議会学会 2016年8月 18-19日 静岡 河野朝子(母性看護学)

テーマ：「医療転換期にある今、そしてこれからを見据えた看護基礎教育の展望～看護の原点である地域包括ケアの担い手の育成～」



地域医療や地域連携をベースにした教育の実際も報告されました。中でも印象的であったのは、基調講演「在宅ホスピス緩和ケア～いのちを生きる最上の幸せ～」小笠原文雄氏（日本在宅ホスピス協会会長）医師の講演であり、チームで看取る実践が多くの事例とともに紹介されました。対象者の笑顔が、その取り組みの魅力を語るにふさわしく、まさにテーマ通り、生ききっている人生の最期であると感じました。フォーマルもインフォーマルもすべての人間関係を活用し、その人の最期を支える活動は、民医連の地域医療の取り組みのように見え魅力的でした。対象者が富裕層であり家庭に介護能力があることが民医連との違いでした。チームでのキーマンはトータルヘルスプランナー（THP）の看護師であり、地域医療における看護職の重要性も再確認出来ました。今や地域での看取りは、民医連以外の組織でも展開されており、共同の取り組みとして、一人一人の対象者の満足を追求することとそれを支える社会制度が重要であると思いました。その後のシンポジウムでは「人間の尊厳を護る地域包括ケアとその担い手育成のありかた」をテーマに、シンポジストとして、看護師（THP）と看護教員、家族が、それぞれの立場から看取りを中心とした在宅看護を語り、基礎教育からは地域看護学実習のカリキュラムへの取り組みが紹介され、本校のカリキュラムにも活かせる内容であり、事例が学生の学びを保障する大きな動機づけになることを確信しました。

7月 社会人経験を持つ看護職の受け入れ方のコツを学ぼう(看護協会) …河野

日本老年看護学学会第21回学術集会「死を見据えたケア～高齢者本人とケアチームによるケアの創造と統合」…岩波

8月 日本看護学校協議会学会…河野・宮川 日本看護学教育学会…塩澤・藤本・鈴木

日本看護研究学会…押領司発表「多系統萎縮症療養者のQOL 評価の現状と課題」

全国Webカウンセリング協議会学習会「ネットいじめ・ネットトラブルを学ぶ勉強会」…藤本

10月 山梨県看護協会自殺防止対策研修会…押領司・鈴木

全日本民医連看護・介護活動研究交流集会「憲法で保障されたいのち・人権・くらしを守りぬこう」…塩澤、佐々木

糖尿病患者を正しく理解～明日から実践できる療養指導～…鈴木

11月 山梨県看護研修センター：在宅に向けての退院支援(I)…宮川

12月 山梨県看護研修センター：看護者としての倫理的感性を磨こう！…河西

在宅に向けての退院支援(II)…宮川

//

父母の会より

■経過・予定

- 6月 ・2年生実習用バック贈呈
- 7月 ・2016年度第一回役員会（役員16名出席）
- 8月 ・原水爆禁止世界大会参加学生への補助（課外活動補助費）
・年度会費5000円納付通知発送
- 11月 ・1年生戴帽式会長出席、記念品贈呈（ナースウォッチー写真）
- 1月 ・2年生実習激励・成人祝い記念品贈呈（図書カード）
- 2月 ・3年生国家試験学習応援の手作り豚汁提供
- 3月 ・3月3日 三年生卒業記念品贈呈-卒業式
・同日 第2回役員会（12時頃）
- 4月 ・4日入学式 ・父母の会総会



2016年度父母の会会費の
納入を御願いいたします。

■御家族の皆様へのお願い

各学年とも寒い中学年の仕上げに向けて奮闘しています。感染症も流行っています。

次の点につきまして引き続き学生の皆さんへのサポートをお願いいたします。

- ①規則正しい生活・健康維持
- ②学習時間確保
- ③精神的サポート
- ④経済的サポート

学校より

学外でカウンセリングが利用可能に

心理臨床オフィス・ルーエのカウンセリングが月3名まで無料で利用できます。同性のカウンセラー可。直接申込可。利用の際は本校の学生証を提示して下さい。

心理臨床オフィス・ルーエ：甲府市酒折2-2-7 ワールドプラザ3F 055-269-7085 JR中央線・酒折駅より徒歩5分 バス停「山梨学院大前」より徒歩1分)

上履きを廃止します—2017年4月から

2017年夏に一階第二図書室を拡張します。それに先立ち4月より玄関のシューズロッカーは撤去し、上履きは廃止します。（玄関面積確保のため）お気づきの点は教員に申し出て下さい。

1月—4月の予定♪

- 1月 5日 始業
- 10日 2年生実習
- 13日 前期一般入学試験
- 2月 8日 期末試験
- 15日 後期一般入学試験
- 19日 看護師国家試験
- 20日 1年生実習
- 28日 2年生期末試験
- 3月 3日 卒業式・父母の会役員会
- 3月 9日 終業
- 16日 新入生オリエンテーション
- 17日 //
- 27日 看護師国家試験合否発表
- 4月 3日 始業
- 4月 4日 入学式・父母の会総会

2017年新年号 編集後記

寒風に身を縮ませながら歩いていると、山茶花（さざんか）のピンクや赤の花に励まされます。花言葉は「困難に打ち克つ」「ひたむきさ」。まるで学生たちの姿を表しているかのようです。旧年中はたくさんの方々にご支援やご協力をいただき、ありがとうございました。日本や世界の動きを見ていると不安になることが多いこの頃ですが、平和な中でこそ一人ひとりの命が大切にされ、看護も輝きを増します。教職員一同「ひたむきさ」をもって、学生と共に歩んでいきたいと思います。今年もよろしくお願いいたします。（K）